2026 1116

「食権力」論から考えるジャガイモ輸入問題

藤原辰史

はじめに

・ジャガイモシストセンチュウとジャガイモシロシストセンチュウ。北海道で苦しめられてきた。
・だけではなく、価格競争の激化＋小麦・豆類・ジャガイモ・甜菜の 4 品の輪作体系の動揺。
・トランプ政権の圧力（カルフォルニア米、アイダホ州とワシントン州の生ジャガイモ＝フライドポテト用が多い）生ジャガイモ輸入解禁（価格差は単純比較で 1.3 倍で日本国産が高い）
→年間推定 1 億 5000 万ドルの新たな輸出市場。＋500 年の生態学的植民地主義の問題
・19 世紀、食権力 food power の登場（価格と投機＋通信ケーブル＋蒸気船＋巨大港）
→食の集中と保管によって、消費者と生産者、他国の政治・経済を支配する力の束のこと
・20 世紀、農業大国アメリカの世紀＝アメリカの「食権力」（キッシンジャー）

1　帝国主義と救荒作物

・スペイン帝国の遺産としてのジャガイモとサツマイモ
・井戸平左衛門（石見の代官）　平地と山地
・アナキズムと芋（ジェームス・C・スコット）

2　世界史の中のジャガイモ

・プロイセン：フリードリヒ大王の決断
・穀物法廃止（1846 年）　自由貿易（賃金の低下）vs 地主保護
・アイルランドのジャガイモ飢饉（同品種、病気、イギリスの食権力、飢餓）
・ゴッホ「ジャガイモを食べる農民」

3　アメリカの市場開放圧力の歴史

・オレゴン州小麦生産者連盟（リチャード・バウム）・厚生省（大磯敏雄）・キッチンカー
・ファストフード旋風
・牛肉オレンジの自由化（ガット・ウルグアイラウンド）
・種子と農薬（緑の革命）

4　終わらない「食の植民地主義」

・サトウキビと黒人奴隷
・『百年の孤独』
・蓬莱米とナタデココとバナナ

おわりに

・そもそも、トランプの関税政策とは？（グローバリズムからの退行、再植民地主義、自国産業の強引な市場開放）
・そもそも、ポテチ用は 2006 年に解禁されていた。米国追随外交のために農業を犠牲にする構図。
・そもそも、食権力の猛威のなかでの食の地域主権とは？